

平成 24 年度 後学期
お茶の水女子大学 ECCELL 社会人プログラムのご案内
(生活科学部 特別設置科目)

毎週火・水・木・金曜の 11・12 限 (18:20~19:50) に 1 科目ずつ、集中授業で 2 科目、
合計 6 科目が開講されます。

【後学期】

火曜日 : コミュニティ保育資源の活用Ⅱ
水曜日 : 乳幼児発達障害論Ⅱ
木曜日 : 現代保育課題研究Ⅳ
金曜日 : 子ども理解と保育の探求Ⅱ
集中講義 : 乳幼児保育マネジメントⅡ
集中講義 : 比較保育実践研究Ⅱ

後学期開講科目 シラバス

コミュニティ保育資源の活用Ⅱ

2 単位 火曜日(不定期 ※) 18:20~21:30

(※開講日時は開講予定参照)

担当: 多田 千尋 (「東京おもちゃ美術館」館長)

主題と目標

地域との連携と協同が今や不可欠の保育及び幼児教育、子育て支援の中で、コミュニティの中に人的資源や文化資源を見出し、計画・連携の実行を図れるよう知識を身に付け見聞を広げる。また、現場検証を重視しつつその方法を探り、コミュニティ保育資源の可能性を具体的に探り、地域コミュニティを精査できる力を育むことを目標とする。

受講条件・その注意

特になし

授業の形態

■講義 □討論 □講読 □実験 □実習 ■実技 ■発表 □演習

教科書・参考図書

「遊びが育てる世代間交流」(黎明書房)

評価方法・評価割合

■ 小論文(レポート)(割合:40%) ■ 出席(割合:60%)

授業計画

地域との連携と協同が今や不可欠の保育及び幼児教育、子育て支援の中で、コミュニティの中に人的資源や文化資源を見出し、計画・連携の実行をするうえで、その方法を探り、文化構想を展開する道標を検証する。

また、2008年4月に廃校となった元小学校に、地域住民とNPOとの文化協働で創設された東京おもちゃ美術館及び赤ちゃん木育ひろばなどの現場検証も十分に実施し、できる限り学外に出向きミュージアムや子育て支援施設の持つ保育資源の可能性も考察する。

- (1) 保育施設が地域と繋がりあう文化協働とは何か
- (2) 地域で保育資源を紡ぐ、保育資源を創る
- (3) 地域とのファシリテーター、インタプリターとしての保育者の可能性
- (4) 老若男女共同参画から見た子育て支援施設の可能性

(5) 東京おもちゃ美術館が創る「多世代交流」「幼老統合ケア」

【現場視察及び検証候補】

東京おもちゃ美術館、赤ちゃん木育ひろば、お茶の水女子大学いずみナーサリー

【開講予定】※

10月9日(火)	18:20-21:30 (2コマ連続授業)	①②	お茶の水女子大学にて
11月6日(火)	18:20-21:30 (2コマ連続授業)	③④	東京おもちゃ美術館にて
11月20日(火)	18:20-21:30 (2コマ連続授業)	⑤⑥	東京おもちゃ美術館にて
11月27日(火)	18:20-21:30 (2コマ連続授業)	⑦⑧	お茶の水女子大学にて
12月11日(火)	18:20-21:30 (2コマ連続授業)	⑨⑩	東京おもちゃ美術館にて
12月23日(日・祝)	10:00-12:00、13:00-15:30 (3コマ分)	⑪⑫⑬	見学 東京おもちゃ美術館にて
1月15日(火)	18:20-21:30 (2コマ連続授業)	⑭⑮	お茶の水女子大学にて

学生へのメッセージ

クオリティの高い学びは現場にこそあり、多くの専門家との交流の中で育まれます。こうした視点を重視した授業を多角的に、多面的に展開します。

乳幼児発達障害論Ⅱ

2単位 水曜日 18:20~19:50

担当：榊原 洋一（お茶の水女子大学大学院 教授）

主題と目標

乳幼児発達障害論後期では、前期に引き続き、乳幼児期に比較的良く見られる神経、精神疾患について概説する。具体的には、てんかん、脳性まひ、筋疾患などの神経疾患、精神遅滞、言語遅滞、協調性運動障害などの発達障害、さらに心身症、不安障害、うつといった精神疾患の特徴、原因と対応について、詳しく解説する。

受講条件・その注意

特になし

授業の形態

■講義 □討論 □講読 □実験 □実習 □実技 □発表 □演習

教科書・参考図書

適宜プリントを配布する。

評価方法・評価割合

■ 期末試験（割合：50%） ■ 出席（割合：50%）

授業計画

10月3日	①	てんかん1について
10月10日	②	てんかん2について
10月17日	③	脳性まひについて
10月24日	④	精神遅滞について
10月31日	⑤	言語遅滞について
11月7日	⑥	心身症について
11月14日	⑦	神経・筋疾患について
11月21日	⑧	チックについて
11月28日	⑨	摂食障害について
12月5日	⑩	排泄障害について
12月12日	⑪	協調性運動障害について

12月19日	⑫	コミュニケーション障害について
1月9日	⑬	不安障害とうつについて
1月16日	⑭	児童虐待とその後遺症について
1月23日	⑮	試験

現代保育課題研究Ⅳ

1単位 木曜日(不定期) 18:20～19:50

担当: 浜口 順子 (お茶の水女子大学大学院 准教授)ほか

主題と目標

本授業は、ゼミ形式で話し合いながら、まず受講生自身の関心をもとに乳幼児の保育実践や教育に関するさまざまな問題について各自研究テーマを設定し、最後に研究レポートを作成することをめざします。受講者が多い場合、なるべく個別指導が可能となるように、グループ別のゼミも行う予定です。

子どもの発達・育ちと保育の関係、実践現場における子育て支援の在り方、観察記録やカンファレンスの活用、保育環境や表現の問題、海外の保育との比較や保育の歴史など、身近な関心から多様なテーマを取り上げ、受講者どうしのコミュニケーションを楽しみながら各自の考察が深まる時間にしたいと思います。

受講条件・その注意

特になし

授業の形態

講義 討論 講読 実験 実習 実技 発表 演習

教科書・参考図書

受講者の研究テーマや問題関心に応じて選択、推薦する。

評価方法・評価割合

小論文(レポート) (割合: 40%) 出席 (割合: 30%) 発表 (割合: 30%)

授業計画

1単位なので、授業の回数は、7～8コマ分の授業となる。受講者の問題関心や研究したいことについてまず話してもらい、研究テーマや研究方法の近い人でグループを作り、課題(講読や訪問、調べ発表など)を検討し、中間発表をする。最終的には、それぞれの研究レポートを提出し、その発表会を行う。

学生へのメッセージ

学生という身分を離れさまざまなキャリアを経ながら、人は、ますます本気で「人として育ち生きる」って何だろうと考えざるを得なくなります。生涯学習のテーマとして「保育」「成長」「子ども」などに取り組んでみると、二重にも三重にも自分の歩んできた軌跡と折り重なってきて、日常が少し新しく見え始めるかもしれません。若い学部生も一緒に受講すると思います。いろいろな世代とかかわり、自由に語り合う中から、小さな「研究」を始めてみましょう。

子ども理解と保育の探求Ⅱ

2単位 金曜日 18:20～19:50

担当: 菊地 知子 (お茶の水女子大学 ECCELL 講師)

主題と目標

居住まい、居心地、居場所、居る／居ない／居なくなる、居にくさ／居やすさ等、「居る」ということをキーワードに、子ども・保育を考え、人が人を理解することについて考える。「子ども理解と保育の探求Ⅰ」に引き続き、現代の日本において多彩で重厚な保育的活動を展開している方々や実践を支えるユニークな人たちをお招きしてお話をうかがう。各ゲスト講師には、1回ないし2回ずつ、時にワークショップも交えながら独自に授

業を展開してもらい、2回目ないし3回目には、受講者からの発言（質問・意見・感想）を生かしつつ、ゲスト講師と当授業担当者との対談によるまとめを行う。受講者一人ひとりが「保育＝共に生きること」の実践者・当事者として参加し、自らの思考を発展させられる場となることを目指す。

受講条件・その注意

特になし

授業の形態

■講義 ■討論 □講読 □実験 □実習 ■実技 ■発表 ■演習

教科書・参考図書

必要に応じてプリント等配布します。

評価方法・評価割合

- 小論文（レポート）（割合：40%） ■ 出席（割合：30%）
- その他（割合：30%） 授業後のコメントペーパー、質問など

授業計画（順番は変更になることがあります）

1. オリエンテーション：改めて子ども理解を問う
2. 子どもの居場所と子ども理解
3. 居場所からの発信（1）－1
4. 居場所からの発信（1）－2
5. 応答と対話的まとめ
6. 研究者からの報告（1）人を生かす場・人に生かされる場
7. 応答と対話的まとめ
8. 人を支える・場に支えられる・支え合う
9. 詩・絵本・文学等の言葉や絵が問うもの
10. 居場所からの発信（2）－1 海外での実践報告
11. 居場所からの発信（2）－2 海外での実践報告
12. 応答と対話的まとめ
13. 研究者からの報告（2）人と共に人を生かす・場に生かされる
14. 応答と対話的まとめ
15. 総括と展望 子ども理解と保育の探求、さらに。

学生へのメッセージ

人ひとりというのは、小さく頼りなく、どうしようもなく心もとない存在です。けれど、つながりの中でどの一人ひとりも世界に居場所を与えられていることを知ることで、多彩にその人らしく生きる希望を誰もが持つでしょう。子ども・保育を考える人間学が希望の学であるために、たっぷりと心を揺らし、動かしながら、共に考えていきましょう。

乳幼児保育マネジメントⅡ

2単位 集中講義

（※開講日時は授業計画参照）

担当： 安治 陽子（お茶の水女子大学 ECCELL 講師）

主題と目標

子どもの育ちは、それぞれに豊かな学びと発達に支えられている。保育の場は、そのような豊かな学びと発達を子ども自身が実現していく場であり、保育者には、それを細やかな配慮のもとに準備し、さまざまな保育・教育資源、人的資源を活用しながら保育環境を構成していく力、さらにその場に応じて一場面の展開に応じて、また子どもの育ちに応じて一柔軟にアレンジしていく力が求められる。子どもの育ちも保護者のニーズも多様化し、保育のあり方も複雑化しているなかで、しかし子どもは、実に豊かな学びを実現し、発達

を遂げながら、保育という場で生活体験を積んでいる。子どもの生活体験について、その豊かな学びと発達に即して理解を深め、日々の保育の意味をとらえ直す作業を通して、保育の質向上のための取り組みを自ら駆動していく力をつけていくことを目標とする。

受講条件・その注意

特になし

授業の形態

■講義 ■討論 □講読 □実験 □実習 □実技 □発表 ■演習

教科書・参考図書

授業で紹介する

評価方法・評価割合

■ 小論文（レポート）（割合：50%） ■ 出席（割合：20%） ■ 討議（割合：30%）

授業計画 ※

12月15日（土）①9:00-10:30 ②10:40-12:10 ③13:20-14:50 ④15:00-16:30

子どもの生活体験を「発達」から考える

- ① 姿勢運動発達が子どもの生活体験を広げる
- ② 感覚・知覚発達と保育環境の構成
- ③ 社会情動発達と保育における関係性の構築
- ④ 認知・言語発達と子どもの遊び

12月16日（日）①9:00-10:30 ②10:40-12:10 ③13:20-14:50 ④15:00-16:30

生活の中の豊かな学び

- ① 食事と排泄 — 五感と身体感覚の協奏、感覚と運動の協応、その膨大な調整
- ② 脱ぐ・着る・たたむ — 前後・左右・上下・表裏・内外の認識、自己像と自己概念
- ③ おかたづけ — 分類と概念、記憶の発達、「しまうーおさまる」という理解
- ④ 時間 — 「場面の移行」「人の出入り」「活動の流れ」を理解するとはどういうことか

1月5日（土）①9:00-10:30 ②10:40-12:10 ③13:20-14:50 ④15:00-16:30

学びと発達の保障—質の高い保育とは

- ① 保育の質をめぐる議論
- ② NICHD（アメリカ国立小児保健発達研究所）の保育縦断研究から
- ③ グループワーク：「保育の質」を構成する要件とは
— 保育環境・保育実践振り返りシートを作成してみよう
- ④ ディスカッション：保育の質向上のために

1月6日（日）①9:00-10:30 ②10:40-12:10 ③13:20-14:50

子どもの育ちを見守る

- ① 子どもの育ちを記録する — 保育記録と実践への活用
- ② 子どもの育ちを共有する — 記録の共有、事例検討の方法
- ③ 子どもの育ちを支える

学生へのメッセージ

子どもの生活の中にある豊かな学びと発達について理解を深め、保育の意味を再発見してみましよう。

比較保育実践研究Ⅱ

1単位 集中講義

（※開講日時は授業計画参照）

担当：星 三和子（名古屋芸術大学大学院 教授）

主題と目標

ヨーロッパの保育について概要を知り、また実際の保育の例を映像と資料から学ぶ。日本

とは異なる保育の歴史、制度、文化をもつ国で行われている保育を知ることは、共有する点はもとより、日本の保育についての考えを相対化し新しい視点から見直すことを可能にする。また討論を通して、実践者の日々の自身の保育実践への省察の機会も提供したい。

受講条件・その注意

特になし

授業の形態

■講義 ■討論 □講読 □実験 □実習 □実技 ■発表 □演習

教科書・参考図書

プリントおよび資料を配布。

参考図書：OECD(星三和子、首藤美香子、大和洋子、一見真理子訳), OECD 保育白書, 明石書店, 2011.

評価方法・評価割合

■ 期末試験 (割合：50%) ■ 出席 (割合：20%) ■ 発表 (割合：30%)

授業計画 ※

1月12日(土) ①13:10-14:40 ②14:50-16:20 ③16:30-17:15 (2.5コマ)

主題：ヨーロッパの保育制度と保育政策

- ① ヨーロッパの保育制度と保育の質についてのいくつかの例
- ② 最近のヨーロッパの保育政策
- ③ 討論、発表

1月13日(日) ①13:10-14:40 ②14:50-16:20 (2コマ)

主題：イタリア、ピストイアの保育から、保育の質を考える。

- ① イタリアの保育の概要とピストイアの保育の背景
- ② ピストイアの保育所、幼児学校について、映像と討論。

2月2日(土) ①10:40-12:10 ②13:10-14:40 ③14:50-16:20 (3コマ)

主題：フランスの保育および日本との比較を通して、保育における文化化・社会化を考える。

- ① フランスの保育の概要
- ② 保育実践の日仏比較研究から。映像と討論。
- ③ 筆記試験

学生へのメッセージ

講義、資料と映像をもとに、実践者としての経験を交えた討論を行い、それを実践の場への示唆に返していけるような授業を全員が作っていくことを期待する。